

# 令和元年度 事務事業の点検及び評価報告書

【評価内容】 評価：事業数：( ) = 平成 30 年度評価事業数：前年比増減

S	=	1 事業	(1)	—	
A	=	32 事業	(29)	3	
B	=	22 事業	(25)	△3	
C	=	1 事業	(0)	1	※中止事業：1 件除く
D	=	0 事業	(1)	△1	
合計	=	<u>56 事業</u>	(56)	0	

※ 事業数(平成 30 年度事業数：56 事業→令和元年度事業数：56 事業)

# 令和2年9月 恩納村教育委員会

## 1 はじめに

教育委員会は毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)：平成27年4月1日改正)

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第26条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年、作成し公表しておりますが、教育委員会では、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後、村民に公表(HP等)するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋 平成27年4月1日改正

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。(平成20年4月1日施行)

## 2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は教育長を含め5名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。

通常の業務については、教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

(1) 教育委員の任命状況

教育委員は、地方公共団体の長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者の中から、地方公共団体の長が、議会の同意を得て、任命します。委員のうち、過半数が同一政党に所属することはできません。更に、地方公共団体の長は、委員の任命に当たって、年齢・性別・職業等に偏りが生じないよう配慮するとともに、保護者である者が含まれるようにしなければならぬとされており、村教育委員会の任命状況は、保護者1名及び社会教育活動者3名となっており、性別及び年齢等に偏りが生じないよう構成に配慮しております。

令和元年度の教育委員の任期期間は次のとおりです。(勤続年月数：令和2年3月31日現在)

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			当初就任	勤続年月数	
教育長	當山欽也	平成29年4月1日～令和2年3月31日	平成29年	1期3年	
委員	伊佐早苗	平成31年3月1日～令和4年9月30日	平成31年	1期1年1カ月	
委員	大城肇	平成29年8月1日～令和6年3月31日	平成13年	6期18年7カ月	
委員	吉山佳子	平成27年4月1日～令和5年3月31日	平成27年	2期5年	教育長職務代理者(平成30年10月1日付)就任
委員	津波古真一	平成29年7月1日～令和3年3月31日	平成29年	1期2年9カ月	

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜、臨時会を開催し、必要事項を審議し、決定しています。令和元年度の教育委員会の会議開催は次のとおりです。

会議の名称	日時	場所	出席委員	案件等
4月定例会	4月19日(金) 10:00～ こいのぼり掲揚式 10:30～11:50 定例教育委員会	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第1号 恩納村立学校評議員の委嘱について</li> <li>4. 議案第2号 恩納村立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について</li> <li>5. 議案第3号 恩納村立中学校統合推進協議会の委員の委嘱について</li> <li>6. 議案第4号 恩納村学校支援地域本部設置要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>7. 議案第5号 恩納村文化情報センター設置及び管理に関する条例施行規則の一部を改正する規則について</li> <li>7. その他の協議・連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度博物館及び文化情報センターの利用状況について</li> <li>・平成31年度恩納村立学校計画訪問の日程変更について</li> </ul> </li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
5月定例会	5月21日(火) 9:30～事前勉強会 10:00～11:50 定例教育委員会	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第6号 恩納村立学校評議員の追加委嘱について</li> <li>4. 議案第7号 恩納村通級指導教室の設置等に関する要綱の制定について</li> <li>5. 議案第8号 令和元年度恩納村一般会計補正予算(第1号)(案)に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて</li> <li>6. その他の協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・恩納村総合教育会議について(協議内容の事前説明) <ol style="list-style-type: none"> <li>① 恩納村第3子以降学校給食費免除事業(平成29年度実施)について</li> <li>② 恩納村奨学金給付型事業(令和元年度実施)</li> <li>③ 恩納村在住高校生通学費助成事業(継続審議)</li> <li>④ 恩納村立学校給食費完全無償化事業(継続審議)</li> <li>⑤ 恩納村立幼稚園保育料無償化事業(継続審議)</li> <li>⑥ 恩納村立中学校給食費無償化事業(継続審議)</li> <li>⑦ 恩納村奨学基金の状況(積立額、寄付者等)</li> </ol> </li> </ul> </li> <li>7. 連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館及び文化情報センターの利用状況について(H31:4月分)</li> <li>・令和元年度学校訪問の視点について</li> </ul> </li> </ol>
6月定例会	6月20日(木) 10:00～17:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第9号 令和元年度恩納村教育委員会事務事業点検及び評価報告書について</li> <li>4. その他の協議・連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館・文化情報センターの利用状況について(R1:5月分)</li> <li>・令和元年度地域教育懇談会の日程及び出席割当について</li> </ul> </li> </ol>
7月臨時会	7月16日(火) 10:00～12:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 議案第10号 令和元年度恩納村教育委員会事務事業点検評価外部評価委員会の委員の委嘱について <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲本政夫(令和元年度7月16日～平成30年度事務事業点検及び評価の答申完了までとする)</li> <li>・村吉エミ子(〃)</li> <li>・仲西智直(〃)</li> </ul> </li> <li>2. その他協議・連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育・保育の無償化の実施に伴う食材費の取扱いについて</li> </ul> </li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
7月定例会	7月29日(月) 10:00~12:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第11号 恩納村教育支援委員会委員の委嘱について</li> <li>4. 議案第12号 統合型校務支援システムの開発及び導入の統一に関する要望書について</li> <li>5. 議案第13号 恩納村立中学校における部活動の在り方に関する方針について</li> <li>6. 議案第14号 令和2年度以降使用する小学校教科用図書の採択について</li> <li>7. 議案第15号 令和2年度使用する中学校教科用図書の採択について</li> <li>8. その他の協議・連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域懇談会及び小学校適正規模の意見交換会(恩納村立喜瀬武原小中学校) 日時：令和元年7月5日(金)17:30~19:30 場所：喜瀬武原小中学校(校舎1階ロビー) 参加者：保護者13名、地域：8名、教員：14名、教育委員会：5名</li> <li>・博物館・文化情報センターの利用状況について (R1:6月分)</li> </ul> </li> </ol>
8月定例会	8月20日(火) 10:00~12:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要、前々回会議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第16号 令和元年度恩納村一般会計補正予算(第2号)(案)に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて</li> <li>4. その他協議・連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食に係る消費税の適用税率について(県教育庁)</li> <li>・恩納村立喜瀬武原小学校適正規模保護者アンケート(案)について</li> <li>・令和元年度各小中学校運動会割当について</li> <li>・博物館・文化情報センターの利用状況について (R1:7月分)</li> <li>・幼児教育無償化の概要説明について</li> </ul> </li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
9月定例会	9月27日(金) 10:00~12:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第17号 恩納村立学校職員服務規程の一部を改正する規則について</li> <li>4. 議案第18号 恩納村立学校職員出退勤管理規程の制定について</li> <li>5. 議案第19号 令和元年度公立学校管理職の途中人事異動内示(案)の承認について</li> <li>6. 議案第20号 令和元年度恩納村条件付採用職員の条件付採用期間の延長について</li> </ol> 5. その他の協議・連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人式について</li> <li>・全国学力テストについて</li> <li>・学校給食センター異物混入について</li> <li>・博物館・文化情報センターの利用状況について (R1:8月分)</li> </ul>
10月定例会	10月21日(月) 9:00~10:15	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第21号 令和元年度公立学校管理職の途中人事異動内示(案)の承認について</li> <li>4. その他の協議・連絡事項               <ul style="list-style-type: none"> <li>・喜瀬武原小学校運営アンケート結果報告及び意見交換会について(令和元年12月13日(金)17:30~喜瀬武原校)</li> <li>・村立うんな中学校進捗状況の報告について</li> <li>・令和元年度恩納村総合教育会議提案(案)内容説明について(第2期(R1~R3)恩納村教育大綱(案)等)</li> <li>・令和元年度恩納村教育委員会生徒指導について(R1:9月末)</li> <li>・博物館・文化情報センターの利用状況について (R1:9月分)</li> </ul> </li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
11 月定例会	11 月 21 日(木) 10:00~12:00	3 階委員会室	5 人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回来議概要の承認について</li> <li>2. 教育長の業務報告について</li> <li>3. 議案第 2 2 号 恩納村スクールバスの運行及び管理に関する規則(案)の承認について</li> <li>4. 議案第 2 3 号 恩納村立中学校統合推進協議会委員の委嘱の承認について</li> <li>4. その他の協議・連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋の叙勲(島袋正重氏)の報告について</li> <li>・喜瀬武原小学校意見交換会(令和元年 12 月 13 日(金)17:00~)について(実施前説明)</li> <li>・博物館・文化情報センターの利用状況について (R1:10 月分)</li> </ul> </li> </ol>
12 月定例会	12 月 20 日(金) 10:00~12:00	3 階委員会室	5 人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回来議概要の承認の件</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第 2 4 号 恩納村教育大綱の一部改正について</li> <li>4. 報告第 1 号 職員の出向について</li> <li>5. 議案第 2 5 号 恩納村立うんな中学校制服支給要綱の制定について</li> <li>6. その他の協議・連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の人事異動発令について(内申)</li> <li>・喜瀬武原小学校特別支援学級の設置について</li> <li>・喜瀬武原小学校の保護者アンケート結果について</li> <li>・令和元年度教育の日に係る表彰について</li> <li>・教職員の働き方改革について</li> <li>・小中一貫校や小中併置について</li> <li>・うんな中学校開校までのスケジュール(書体等)について</li> <li>・秋の叙勲について</li> <li>・博物館・文化情報センターの入館者数(R1:11 月分)について</li> </ul> </li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
1月定例会	1月21日(火) 10:00~12:00	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議の概要の承認の件</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第26号 令和2年度恩納村立喜瀬武原幼稚園の休園の承認について</li> <li>4. 議案第27号 中頭地方視聴覚協議会廃止規約について</li> <li>5. 議案第28号 令和元年度教育委員会職員に係る人事異動の内示(案)について</li> <li>6. その他の協議・連絡事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの教育について(動画：稲福主任指導主事)</li> <li>・コミュニティースクール(予算関係)について</li> <li>・村立うんな中学校開校式(4月11日)について</li> <li>・生徒指導等不登校・問題行動について(報告)</li> <li>・恩納村教育の日(1月28日)について</li> <li>・博物館・文化情報センターの入館者数(R1:12月分)について</li> </ul> </li> </ol>
2月定例会	2月18日(火) 9:00~12:15	3階委員会室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第29号 恩納村教育委員会事務局組織規則等の一部を改正する規則について</li> <li>4. 議案第30号 恩納村立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について</li> <li>5. 議案第31号 恩納村立中学校統合推進室設置規則等を廃止する規則について</li> <li>6. 議案第32号 恩納村「アジア圏内(文化・交流)体験プログラム」派遣事業実施要項の改正について</li> <li>7. 議案第33号 社会教育委員の委嘱について</li> <li>8. 議案第34号 恩納村社会教育指導員の委嘱について</li> <li>9. 議案第35号 恩納村学校支援地域本部地域コーディネーターの委嘱について</li> <li>10. 議案第36号 恩納村博物館展示検討委員会規定の制定について</li> <li>11. 議案第37号 恩納村スクールカウンセラー設置要綱の制定について</li> <li>12. 議案第38号 恩納村学校運営協議会規則の制定について</li> <li>13. 議案第39号 令和2年度恩納村一般会計予算(案)に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて</li> <li>14. 議案第40号 令和元年度恩納村一般会計第6号補正予算に対する意見を村長に申し出るにつき議決を求めることについて</li> <li>15. 議案第41号 令和2年度公立学校管理職の定期人事異動内示(案)の承認について</li> <li>16. 議案第42号 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う教育委員会関係規程の整備に関する規程について</li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				17. 議案第43号 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う教育委員会関係規則の整備に関する規則について 18. 議案第44号 地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う教育委員会関係要綱の整備に関する要綱について 19. その他協議事項 ・生徒指導等不登校・問題行動について(報告) ・山田グスクの調査について ・文化情報センター入館者40万人達成について ・各村立中学校閉校式の日程について ・村立うんな中学校開校式及び祝賀会について ・新型コロナウイルス感染症対策について
3月臨時会	3月3日(火) 10:00~12:00	3階委員会室	5人	1. 議案第45号 令和2年度教育委員会職員に係る人事異動の内示(案)の承認について 2. 議案第46号 令和2年度公立学校教諭等の定期人事異動の内示(案)の承認について
3月定例会	3月19日(木) 10:00~12:00	3階委員会室	5人	1. 前回概要の承認の件 2. 教育長の業務報告 3. 議案第47号 令和2年度恩納村立各学校における学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 4. 議案第48号 令和2年度恩納村スクールカウンセラーの委嘱について 5. 議案第49号 恩納村教育相談員の委嘱について 6. 議案第50号 令和2年度恩納村「言葉の教室巡回指導員」の委嘱について 7. 議案第51号 恩納村遠距離通学費助成金交付要綱の制定について 8. 議案第52号 恩納村立学校安全対策監視カメラの設置及び運用に関する要綱の一部を改正する要綱について 9. 議案第53号 恩納村学校支援地域本部運営委員会委員の委嘱について 10. 議案第54号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について 11. 議案第55号 恩納村立学校施設等の使用料に関する条例施行規則の一部を改正する規則について 12. 議案第56号 令和2年度教育委員会職員に係る人事異動内示(案)の承認について 13. 議案第57号 恩納村文化財保護審議会委員の委嘱について 14. 議案第58号 恩納村博物館協議会委員の委嘱について 15. 議案第59号 恩納村博物館展示検討委員の委嘱について 16. 議案第60号 恩納村第3子以降学校給食費免除実施要綱の一部を改正する要綱について 17. 議案第61号 恩納村立学校給食センター運営要綱の一部を改正する要綱について

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				18. 議案第62号 恩納村給食センター運営委員会規程の一部を改正する規程について 19. 議案第63号 恩納村部活動指導員設置要綱の制定について その他の協議・連絡事項 ・生徒指導等不登校・問題行動について(報告) ・高校入試の結果について ・入学式日程について ・恩納村教育委員会行事予定表について ・学校職員名簿について
<b>【参考】</b> 令和元年度 第1回 恩納村総合教育会議	6月3日(月) 10:00~12:00	3階会議室	村長 教育長 教育委員 4名 計6名 (事務局) 教育委員会 6名 総務課 2名	1. 恩納村学校給食費無償化について(継続審議) ※資料1 2. 恩納村立幼稚園・小学校適正規模について(新規) ※資料2 3. その他情報及び意見交換 ①中学校統合の進捗状況について ・校名「恩納村立うんな中学校」に決定 ・校歌「作詞：宮沢和史、作曲：佐渡山安信」へ依頼 ・校章「全国公募」 ・制服「ブレザー」(パンツ、スカートスタイル：自由選択) ・PTA部会「スクールバス関係」 ・教育課程及び事務部会「うんな中学校で決定」 ・その他報告事項
<b>【参考】</b> 令和元年度 第2回 恩納村総合教育会議	10月21日(月) 10:00~12:00	3階会議室	村長 教育長 教育委員 4名 計6名 (事務局) 教育委員会 10名 総務課 4名	1. 恩納村学校給食費無償化について(実施年度) ※資料1 2. 恩納村教育大綱(第2期：令和元年度~令和3年度) ※資料4 3. その他情報及び意見交換 ・学校給食センター異物混入について(報告) ※資料2 ・恩納村立小中学校におけるいじめ等の状況について(報告) ※資料3 ・中学校統合の進捗状況について(報告) ・喜瀬武原小学校運営保護者アンケート(案)について ・その他報告事項

なお、教育委員会で令和元年度中に審議された案件(議案)を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

条例関係	規則・規程・要綱等	人事・選任・委嘱関係	その他(予算等)	合計
0件	26件	26件	11件	63件

(3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、学力向上やいじめ問題等の状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させ、重要事案においては、教育総合会議での報告を行っております。

令和元年度における村及び教育委員会主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平成31年4月1日	役場1・2階会議室・1階会議室	平成31年度村職員辞令交付式(教育委員会・村辞令交付)	當山教育長
4月2日	ゆうなホール	平成31年度学校教職員辞令交付式	全教育委員
4月9日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	小中学校入学式	伊佐委員(告辞) 當山教育長(告辞) 津波古委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)
4月10日	安富祖幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式	伊佐委員(告辞) 津波古委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)
令和元年5月14日	役場2階会議室	村学力向上推進委員会総会	當山教育長・全委員
5月22日	安富祖幼小中学校	学校計画訪問	當山教育長・全委員
6月3日	役場3階常任委員会室	令和元年度第1回恩納村総合教育会議	當山教育長・全委員
6月4日	恩納幼小中学校	学校計画訪問	當山教育長・全委員
6月21日	仲泊幼小中学校	学校計画訪問	當山教育長・全委員
6月24日	喜瀬武原小中学校	学校計画訪問	當山教育長・全委員
7月1日	山田幼小中学校	学校計画訪問	當山教育長・全委員
8月5日	ゆうなホール	恩納村少年の主張・意見発表会	當山教育長・全委員
9月10日	役場2階会議室	第9回未来塾開講式	當山教育長・全委員
9月15日	山田幼小中学校	運動会	吉山委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
9月17日	OIST	第30回英語ストーリー・スピーチコンテスト	當山教育長・全委員
9月29日	安富祖幼小中学校 恩納幼小中学校 仲泊幼小中学校	運動会	伊佐委員 津波古委員 大城委員
10月6日	喜瀬武原幼小中学校	運動会	當山教育長
10月16日	安富祖小中学校	童話お話大会	當山教育長・全委員
10月21日	役場3階全員協議会室	令和元年度第2回恩納村総合教育会議	當山教育長・全委員
11月3日	ゆうなホール	第27回村文化祭「芸能部門」(文化協会)	當山教育長
11月24日	安富祖幼小中学校 仲泊幼小中学校	小学校学習発表会・実践報告会	伊佐委員 大城委員
11月30日	山田幼小中学校	小学校学習発表会・実践報告会 山田小中学校130周年・70周年記念式典	當山教育長・吉山委員 〃
12月1日	喜瀬武原幼小中学校 恩納幼小中学校	小学校学習発表会・実践報告会 〃	當山教育長 津波古委員
12月5日	恩納幼小中学校	名護人権擁護委員協議会人権教室(読み聞かせ)	當山教育長・全委員
令和2年1月4日	ゆうなホール	村成人式	當山教育長・全委員
1月17日	北中城村あやかりの杜	中頭地区市町村教育委員会協議会・研修会	當山教育長・全委員
1月28日	ゆうなホール	村学力向上実践報告会「学びを確かめ・つなぐ集い」	當山教育長・全委員
1月30日	県庁4階講堂	市町村教育委員会委員・教育長研修会	當山教育長・全委員
2月5日	安富祖幼小中学校	公開授業(プログラミング学習)5年生「算数」	當山教育長・全委員
2月8日	ふれあい体験学習センター	第22回村産業まつりオープニングセレモニー	當山教育長・全委員
2月27日	役場2階会議室	未来塾閉講式	當山教育長・全委員
3月7日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	中学校卒業式(喜瀬武原小中学校合同)	伊佐委員(告辞) 當山教育長(告辞) 津波古委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)
3月16日	安富祖幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	幼稚園修了式	伊佐委員(告辞) 津波古委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
3月17日	安富祖小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	小学校卒業式	伊佐委員(告辞) 津波古委員(告辞) 大城委員(告辞) 吉山委員(告辞)
3月21日	安富祖幼小中学校	安富祖中学校閉校式	當山教育長・伊佐委員

#### (4) 研修会や懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。また、地域の声を村教育行政に反映させるため、村内の各団体との意見交換会や懇談会を開催しています。

令和元年度の研修会や懇談会等への出席状況は、次のとおりです。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
4月12日	北中城村立中央公民館	令和元年度中頭地区市町村教育委員会協議会第1回幹事会	吉山委員
令和元年5月9日～ 10日	東京都	全国町村教育長会	當山教育長
5月17日	北中城村立中央公民館	中頭地区教育委員会総会及び研修会	當山教育長・全委員
5月30日～31日	名護市民会館	第64回沖縄県市町村教育委員会連合会 総会並びに研修会	當山教育長・全委員
7月4日	仲泊幼小中学校 (仲泊・前兼久・富着)	地域懇談会(教育委員会)	大城委員
7月5日	喜瀬武原小中学校	地域懇談会及び学校適正規模意見交換会	教育長
7月19日	中頭地区教育事務所	中頭地区新任教育委員研修会	伊佐委員
7月23日	瀬良垣公民館	地域懇談会(教育委員会)	大城委員
〃	谷茶公民館	地域懇談会(教育委員会)	津波古委員
7月24日	太田公民館	地域懇談会(教育委員会)	吉山委員
〃	恩納村役場2階会議室	教育委員会管理者研修会	教育長、全委員
7月25日	山田幼小中学校 (山田・真栄田・塩屋・宇加地)	地域懇談会(教育委員会)	吉山委員
〃	安富祖幼小中学校 (名嘉真・安富祖)	地域懇談会(教育委員会)	伊佐委員
〃	恩納区ふれあい館	地域懇談会(教育委員会)	津波古委員

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
7 月 25 日	南恩納公民館	地域懇談会(教育委員会)	教育長
8 月 1 日～2 日	大分県	九州地区市町村教育委員会研修会	津波古委員・伊佐委員
10 月 23 日	那覇市パレット久茂地	県市町村教育委員会研修会	當山教育長・全委員
10 月 25 日	北中城村立中央公民館	令和元年度中頭地区市町村教育委員会協議会第 2 回幹事会	吉山委員
2 月 8 日	沖縄市民会館	第 42 回中頭地区学力向上実践推進大会	當山教育長・全委員
2 月 21 日	北中城村立中央公民館	令和元年度中頭地区市町村教育委員会協議会第 3 回幹事会	吉山委員

### 3 事務の点検評価について

令和元年度の事務の点検及び評価の項目は、前年に引き続き、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取り組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の 8 項目とし、毎年度事業項目の分類数を検討し、最小限の事業項目数に改めて事業評価シートを作成しております。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の 3 項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取り組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取り組みは 1 年遅れになることがありますが、この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとします。

評価の方法については、次のとおり 5 段階で評価しました。

#### 【5 段階評価の内容】

- S：目標以上に事業効果をあげることができた。
- A：目標が達成できた。
- B：目標が概ね達成できた。
- C：目標が一部しか達成できなかった。
- D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された令和元年度事務事業の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

(1) 学校教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
教育委員会研修事業(石川)  No.1	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	村教育委員会での単独研修及び近隣の町村教育委員会との合同研修を予定したが実施には至らなかったため、次年度への課題として村教育委員会での社会教育事業に特化した単独研修及び他市町村教育委員会との合同研修会を実施し、教育委員及び事務局職員等の見識を高めていきたい。	定例教育委員会(毎月)の時間を繰り上げて教育委員会単独の勉強会を継続して開催し、情報の共有化及び教育委員会各種事業の研究等を実施した。  前年度の課題であった他市町村教育委員会との合同研修会及び意見交換会等の開催が出来なかったが、沖縄県市町村教育委員会連合会開催の研修会の分科会テーマにおける学習会を実施した。	定例教育委員会の事前勉強会(30分)で教育委員会の現状や課題等を共有でき、教育委員の調査研究に役立った。  沖縄県市町村教育委員会連合会研修会の分科会のテーマについて各教育委員で共有が図れた。  【分科会】 (第1分科会) 「認定こども園の運営上の課題について」(教育長)  (第2分科会) 「保・幼・小・中の連携による中学校の学力向上について」(津波古・大城委員)  (第3分科会) 「家庭・地域におけるキャリア教育の在り方について」(吉山・伊佐委員)	数年、課題に掲げていた村教育委員会独自の研修会開催を実施し、一般的な学識、経験等を広め、教育環境や住民ニーズを施策に適切に反映させる。	B	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
学校評議員設置事業(米田・饒波) No.2	地域の住民の意見を学校経営に取り入れ、地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に5名以内の学校評議員を配置する。	村内小学校を中心に学校評議員からコミュニティスクールへ移行していく。	コミュニティスクールへの移行に伴う組織改編について協議し、確認を行った。	各学校から提出された課題を協議し、学校教育の改善ができた。 学校評議委員会から学校運営委員会への移行について確認し、引き継ぎを行った。	学校運営協議会の討議内容の把握を行い、学校運営等に生かされ、子どもの変容につながっているのかを確認する。	B	①現状の内容で継続
校長会・教頭会 (米田・具志堅) No.3	教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。現場の課題についての情報交換を行い、課題を明確にし、教育行政に反映させる。	次年度の中学校統合に向けて、教育課程の検討や新学習指導要領の移行期に関する取り組みについて情報の共有を図る。	各校長や教頭と課題と成果について協議を行った。 うんな中学校への統合に向けて小中連携について協議を行った。	学校課題について共通理解を図り、次年度のうんな中学校への統合に向けて、小中の連携について確認を行うことができた。	学校運営の課題や成果を共有し、共通実践事項の徹底を図る。 小中連携を密に行うことができるように毎月の定例校長会や教頭会、各種担当者会等で話し合いの場を設定する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
教育相談事業 (石川)  No.4	<p>配慮を要する幼児・児童・生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。</p> <p>学校からの派遣要請を受け、不登校児童・生徒の状況に沿った支援を実施する。</p>	<p>前年度の課題でもあった不登校児童・生徒の対応において教育相談室及び支援施設等への通学を登校及び欠席扱いとするかの判断基準を策定できず、「恩納村教育委員会教育相談室及び民間施設での相談・指導等を受けている不登校児童生徒への対応について(案)」を再度、教育委員会で協議を行い、文部科学省等の動向も確認しながら判断基準を定めていく。</p> <p>上記の課題においては、教育相談事業の課題としては適当でないため変更とし、同事業においては主な業務に対する目的課題等を設定する。</p>	<p>不登校児童生徒への対応をSSW等と連携を図り、教育相談室への通室から学校への登校支援の充実に努めた。又、学校・保護者等との情報の共有を密に図り、不登校への適切な対応や不登校生徒への進学意欲の向上を図った。</p> <p>【活動内容】(前年度)</p> <p>① 情報交換等：17件(12)</p> <p>② 児童生徒支援及び学校派遣等：119件(107)</p> <p>③ 講演会参加等：1件(0)</p> <p>④ SSWケース会議等：10件(10)</p> <p>⑤ 教材研究・その他：21件(29)</p> <p>合計：168件(158)</p> <p>教育相談員の活動においては、児童生徒の状況に応じて学校派遣及び登校支援へと繋げる活動を実施した。</p> <p>(主な業務内容)</p> <p>○SSWとの家庭訪問、支援のあり方、親子相談、情報交換、ケース会議、関係部局との調整会議等</p>	<p>不登校児童・生徒への対応で、教育相談員を学校への派遣(学校要請)を継続的に行うことにより不登校等の課題を抱えた児童生徒に迅速に対応することができ、昨年度に続き、受検対象生徒への学習支援等を行った結果、高校合格へと繋ぐことができた。</p> <p>又、SSWスーパービジョンへ参加し、見識を高めた。</p>	<p>前年度の課題において、教育相談事業として適当でないため課題を変更する。</p> <p>新たな不登校を出さないため、SSW、学校及び保護者等との教育相談を早い段階で行い、不登校児童生徒の解消を行う。</p>	A	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
			(主な児童生徒対応) ○小学生：1名(不登校) ※学校派遣での支援 ○中学生：1名(不登校) ※教育相談室での支援				
教育委員会学校計画訪問(米田) No.5	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。	次年度の中学校統合に向け、学力向上に関する学校間の取り組みの差の解消を図る	学校経営・教科経営・学級経営に関する指導助言等を行い、学校課題の解決を図った。 学力向上推進に関する学校課題に対して全校体制で課題解決が行えるように指導助言を行った。	教育委員会による計画的な学校訪問の実施により、学校課題に対し適切な指導助言等が行われ改善が図られた。また、確かな学力の向上にもつながった。	マネジメントサイクルに沿った実践の意識化を毎月の定例校長会や教頭会で話し合いの場を設定する。	B	①現状の内容で継続
奨学資金貸与事業(名城) No.6	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	給付型奨学金の開始にあたり、申込状況等を分析し、制度設計の見直しが必要か検討する。 貸与型奨学金の償還滞納整理を進める。	給付型奨学金が創設され、従来の貸与型奨学金と並行して実施した。	給付型奨学金の申し込み11件(うち県内6件、県外5件)があり、10件1,500,000円(県内5件500,000円、県外5件1,000,000円)の給付を決定した。 貸与型奨学金申込者全員に対し貸与を行った。(県内15名・県外16名)貸与額は11,220千円で前年度比▲2,340千円。償還額は11,883	給付型奨学金の申し込みが見込みの半数であったことから、周知を拡充していく必要がある。 貸与型奨学金の償還滞納整理を進める。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
				千円で前年度比 ▲882千円。 寄付金 1,000千円。 ○単年度収支過不足額 663千円			
キャリア教育事業 ・職場体験学習 ・職場見学 (具志堅)  No.7	児童生徒を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	主体を各中学校へ移行した結果、中学校と各事業所との連携を密に行うことができてきた。今後は、統合中学校として単独の取り組みになるが、恩納村地域型就業意識向上支援業務との連携で、キャリア教育の充実に努めていきたい。	職場体験学習担当者会議において、学校主体の取組みを検討し次年度への計画が整った。	村内の多くの事業所に協力してもらい、職場体験学習に取り組むことができた。また、学校主体の意識が高まったことで、キャリア教育の視点での取り組みが行えた。	恩納村地域型就業意識向上支援業務との連携による、学校生活と社会生活や職業生活を関連付けることを意識したキャリア教育の推進	A	①現状の内容で継続
幼稚園教諭研修会 (米田)  No.8	村内4幼稚園教諭の資質の向上を図る。幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	幼稚園教諭のスキルアップを図るため、毎月の定例会において、保育技術に関する研修を行う。	毎月の研修会を計画的に実施し、新教育要領の完全実施の確認を行い、各園の連携に努めた。 幼稚園教諭のスキルアップのため村外で開催される研修会への参加を積極的に奨励した。	毎月の研修会の内容を充実させることで各園の保育について連携を図る事ができた。 関係機関の主催する研修会へ参加することで教員の資質の向上が図られた。	研修会、教材研究等の十分な時間の確保が必要であるため、次年度も、幼稚園教諭研修会を10回以上実施する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
幼稚園管理備品・ 保育振興備品整備 事業(名城) No.9	幼稚園教育に関する 備品及び保育環境の充 実を図る。	入園者数の推移から必 要な数を確認しながら効 率的に備品整備を進める。 【参考】 ○園児数に関する備品 (机・いす等)の整備に努め る。	幼稚園会において備品 等の不足が生じた際に各 園間で必要数を補填する など有効に活用するよう 提案した。	各幼稚園に備品 等の不足が生じなか ったため各園の要望 どおり備品整備でき た。 予算 407,000 円 執行額 392,073 円 【参考】 ○安富祖幼稚園 ・洗濯機 ○恩納幼稚園 ・ミニベンチほか ○仲泊幼稚園 ・幼児用テーブルほか ○山田幼稚園 ・園児いすほか	購入する時期を 早め老朽化した園 児用いすやテーブ ル等の備品の入れ 替えを進める。	A	①現状の内容 で継続
幼稚園教育の推進 (米田) No.10	幼稚園の自然環境・ 人的環境を生かした特 色ある幼児教育活動を 実施する。	各園の年間計画に沿っ た校内研修の実施に努め、 特色ある幼児教育活動を 充実させる。	新幼稚園教育要領実施 について、学校訪問や研修 会を通して指導助言を行 った。 幼稚園教諭の研修会を 充実させ各園の実態に応 じた取組みを計画的に 実施した。	新幼稚園教育要領 に沿った取組みが 実践されつつ有り、 自然環境・人的環境 を活かした活動が実 施され、園児が積極 的に外遊びや生き物 に興味を示すなどの 良好な変容が見られ た。	幼稚園運営の視 点に立ったマネジ メントサイクルの 実践が課題で有り、 幼稚園の教育環境 を新幼稚園要領の 内容に沿うよう計 画、改善を行う。	B	①現状の内容 で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
教育振興備品整備 事業(名城) No.11	学校の要望に基づく教材備品を拡充することにより、効果的な学習が行えるようにする。	中学校統合に向けた備品整理や管理体制の整備を進める。	中学校統合前に新中学校へ移設する物を選別し、故障した物や不要な物を一斉に処分した。 備品管理システムの見直しを検討した。	中学校備品の整理を早めに着手したことによりスムーズに進んだ。 全小学校に英語教材を整備。教科書改訂に伴い指導者用デジタル教科書(9,437,786円)を全小学校に整備。	G I G Aスクール事業の実施にむけて、ネットワーク整備と端末整備を滞りなく進める。 中学校が教科書改訂を控えているため、指導者用デジタル教科書の整備を進める。 引き続き備品管理方法を見直す。	A	①現状の内容で継続
就学支援事業 (仲間) No.12	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に支援を要する児童生徒の教育の充実を図る。	ここ数年要保護児童生徒援助費補助金の額が増加傾向にあることから、支給額については年度ごとに検討し、県の担当者会議での各市町村の情報を参考に制度の充実、適切な実施に努める。	次年度に向け増額傾向にある要保護児童生徒援助費補助金の金額を参考に、支給額の増額を検討した。	支給額の早期増額検討により、新年度予算に反映させることができた。 ○令和元年度認定者(前年度) ・準要保護 196名(195) ・要保護 4名(5)	引き続き準保護・要保護児童生徒援助費補助金の額については近隣市町村をはじめ、各市町村の情報を参考に制度の充実・適切な実施に努める。	A	①現状の内容で継続
心の教室相談員配置事業 (具志堅) No.13	児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活を営むことができる学校環境を整備する。	研修会等を通して児童生徒・保護者の更なる情報共有の充実を図るとともに、各関係機関(SSW、SC、福祉健康課、要対協等)との連携を密にし、組織的に支援していく。	心の教室相談員研修会で情報交換を行うと同時に不登校の未然防止や児童生徒の抱える課題についてのSSWやSCとの情報共有ができた。	心の教室相談員同士による事例紹介により、児童生徒・保護者への対応の仕方について確認ができ、対応の充実が図られている。また、教職員と連携した取り組みも図られている。	スクールカウンセラーへの業務移行のため令和2年度より配置なし	B	③事業の廃止

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
教育の情報化コー ディネーター配置 事業 (名城)  No.14	恩納村立幼稚園・小 中学校における学校 I C T 環境整備に対する 提案とその効果的な活 用、情報化による授業 改善や児童生徒への直 接指導、テレビ電話シ ステムを活用、リスク マネジメント、情報機 器を活用した情報公 開・広報等について専 門的知見から教育の情 報化を推進するために 派遣する。	ネットワーク強靱化お よび次期校務支援シス テムに各校の教務主任や情 報担当者等の意見を反映 させ、円滑に導入を進め る。	中学校統合にむけたネ ットワークの強靱化およ び新校務支援システムを 導入した。 各校の情報担当者等へ 新校務支援システムにつ いて研修を実施した。 G I G A スクール事業 の展開について精査を行 い、着手することを決定し た。 プログラミング教育の 職員研修を実施した。	新校務支援システ ムの導入により教員 の業務改善につなが った。 ICT 教育機器を有 効活用するための研 修等を学校で行い、 よりわかりやすい授 業の構築が図られ た。 各学校における情 報教育機器のトラブ ルについて、保守委 託先の業者と調整を 行い、専門的知識を 生かし最適な対処を した。	G I G A スク ール事業(一人一台端 末)の展開に向け、 機器選定や活用研 修の実施を行う必 要がある。	B	①現状の内容 で継続
特別支援員配置事 業(名城)  No.15	障がいのある幼児児 童生徒の自立や社会参 加に向けた主体的な取 組みを支援する。	指導主事による研修 を行い、支援員の資質向上 を図る。	支援を要する児童生徒 に対し、幼稚園 4 名、小 学校 11 名、中学校 6 名の 支援員を配置した。 指導主事による研修を 3 回実施した。	研修により支援員 の資質向上が図られ た。	財源となる一括 交付金事業の終了 を見据え、支援員の 適正配置を検討す る必要がある。	A	②事業を拡大 して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
英語指導助手派遣事業（ALT） (米田・名城) No.16	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	新しく高学年を受け持つ教諭に対し、小学校外国語指導員による英語科の指導技術の向上を図る。	小学校英語担当者会を開催し、新学習指導要領の取組みについて共通確認を行った。 また、小学校外国語指導員の積極的な活用により英語教育に関する小学校教諭のスキルアップを図った。	小学校外国語指導員や中学校英語教諭との連携、指導助言により小学校高学年の担任教諭のスキルアップが図られ、児童にとってわかる授業の実践がなされた。	チームティーチングによる授業実践でのT1、T2の役割分担の明確化が必要である。	B	①現状の内容で継続
対外競技派遣及び中学校部活動支援事業 (名城) No.17	児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。  中学校の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	中学校統合にむけ部活動のあり方や必要な予算規模等を見極め予算の確保に努める。  【参考】 ○沖縄県教職員働き方改革推進プランを参考に部活動の在り方(案)を策定する。	予算確保に努め、部活動で使用する用具購入にかかる費用の支援をはじめ、県内外の大会へ派遣が決定した競技においては、派遣にかかる費用を支援したことで、各学校での部活動が充実した。  文化的・体育的活動の充実を図るため部活動消耗品等の部活動予算の確保に努めた。特にバドミントン部においてはシャトルの消耗が激しいためその状況を勘案し、予算配分を行った。  恩納村立中学校における部活動の在り方に関する方針を策定した。	【恩納中学校】 ○男子バレー部 中体連県大会（石垣市） ○男子砲丸 中体連九州大会（熊本県）  【安富祖中学校】 ○男子バドミントン九州大会（福岡県） ○男子バドミントン熊本オープン大会（熊本県）  各学校への部活動予算の配分を行い、部活動消耗品等の充実が図られた。 執行額：2,242,310円	新設される部活動もあるため、柔軟な予算対応が必要となる。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
標準学力検査 知能検査 hyper-QUテスト 進路適性検査事業 (具志堅)  No.18	児童生徒の学力の定着状況を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	hyper-QU テストの活用で、学級経営の充実に役立てると共に、不登校の未然防止に重要な参考資料として有効活用をしていく。 全国学調との整合性を図るため、学力検査の実施方法（業者の選定も含む）を検討し、より個に応じた指導方法の確立を図り、児童生徒の学力向上に努めていく。	hyper-QU テスト・標準学力検査等の活用説明会を実施した。 【hyper-QU テスト】 ・学級満足度尺度、学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル尺度で児童・生徒の心理的側面についての理解を深め、個に応じた指導に活用した。	hyper-QU テストの活用説明会を実施することで、児童生徒の実態把握及び指導のための参考資料を活用し、学級経営の充実につなげることができた。 又、標準学力検査の分析説明会を行うことで、児童生徒の学力の実態が各学校で把握され、個に応じた指導につながった。	検査結果を学級経営にいかすための活用説明会の実施と、個に応じた支援を必要とする児童生徒への、チームによる継続的な関わりでの充実。	B	①現状の内容で継続
指定研究事業 (米田)  No.19	特色ある学校づくり及び学力の向上を目指し、教科・領域指定及び皆泳指定研究をする。	山田校の取り組みについて実践報告会を開催し、成果を村内全学校で共有する。	村学推要項と整合させて、村内の学校での共通実践の徹底を図った。	共通実践項目の徹底を図ることで、次年度のうんな中学校への統合をスムーズにし、今後の小中連携のための各小学校の意識化が図られた。	共通実践項目の徹底を行い、新たな学力向上推進プランⅡに沿った取組の充実を図る。 うんな中学校統合に向けて、各小学校のより一層の共通実践を図る。	B	①現状の内容で継続
小中学校施設整備事業 (當山) No.20	適切な学校の施設整備を行なうことでよりよい教育環境を確保する。	老朽化施設の状況等を把握し、学校施設の改築計画を検討する。	各小中学校の老朽化した施設等の修繕を行い、よりよい教育環境の確保を行った。	各小中学校の安心安全な教育環境を提供できた。	うんな中学校開校に伴う、空き教室の利活用に向けた施設整備を行う。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
学校施設維持管理 事業(當山)  No.21	適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことでよりよい教育環境の確保	施設修繕等により施設の長寿命化を図る。	予算及び優先順位等を考慮し、修繕を行い、教育環境の維持管理に務めた。 【令和元年度】 施設修繕費：18,359千円 (前年度：8,589千円)	各学校の保守点検消防用設備・貯水槽等及び63件(前年度：85件)の修繕を実施した。	各小学校施設における教育環境の保守点検及び維持管理に努める。 維持管理の課題である各小学校体育館雨漏りの原因を確認し、修繕を実施する。	B	①現状の内容で継続
恩納村立中学校適正規模推進事業 (恩納村教育振興審議会答申) (石川・當山)  No.22	少子高齢化に伴い、幼小中学校の児童生徒の減少化は進み、殆どの中学校で学年1学級又は複式学級となっており、今後もこの傾向は続くことが予測され幼小中学校の適正規模推進計画を策定し、中学校統合に向けた事業を実施する。	【学校教育課】 開校に影響のないように、全工事及び全業務の安全管理・工程管理に努め、工事完了(令和2年3月完了)を目指す。  【中学校統合推進室】 生徒・教員・地域からでた意見を協議会で総合的に判断し各事項を決定し魅力ある、中学校を開校する準備をする。	【学校教育課】 令和元年度における全工事及び全業務の安全・工程管理に努めた。 一部工期の変更があったが、年度末に完了できた。  【中学校統合推進室】 中学校統合推進協議会及び各専門部会において決定すべき事項を完了し、うんな中学校の開校準備を終えた。 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策に伴い、入学式、始業式及び開校式は延期となった。	【学校教育課】 新設校のうんな中学校開校に無事工事完了できたが、新型コロナウイルス感染症予防対策で3月臨時休校となった。 スクールバスの試験運行で生徒の乗り降り確認ができた。  【中学校統合推進室】 総務部会 5回 PTA部会 3回 教育課程及び事務部会 4回 全体協議会 1回 スクールバスの試験運行等を終え、生徒の登校時の安全確認ができた。	完了	A	事業完了

(2) 社会教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
青少年団体等活動助成事業 (4団体) (瀬良垣)  No.1	青少年団体等が実施する活動を支援し、体験活動等とおして、健全な青少年の育成を図る。	補助金の有効活用を図るため、助成決定団体に対して補助金活用について説明を行う。	前年度同様、子ども会及び読み聞かせボランティア団体、少年スポーツ団体等への周知を行った。	各団体への助成を行った。 (4団体) 【実績】 読み聞かせサークル：2団体 スポーツ団体：1団体 放課後子どもキッズクラブ：1団体	助成を決定した団体に対し補助金活用について説明を行い、助成金の活用が事業目標にしっかりと沿うように指導すること。	A	①現状の内容で継続
国際交流派遣事業(瀬良垣)  No.2	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。  (アメリカホームステイ) 中高校生対象：5名、但し、応募が少ない場合には大学生の応募も対象可)  (アジア圏内[台湾]交流事業：総勢15名①村立小中学校児童生徒10名②引率者5名)	アメリカホームステイについて、前年度に比べ応募者が少なかった。(応募資格の変更に伴う：4級から3級に引上げ)  アジア交流事業においても、小学生に比べ中学生の応募が極端に少なかった(小学生応募13人に対し中学3人)。  前年度に引き続き、周知を徹底し応募者増に努めること。	引き続き要・準要保護世帯枠を設けるとともに、村ホームページや広報誌、教育委員会関係行事予定表等を活用し募集案内に取り組んだ。	アメリカホームステイについては、前年度応募13名に対し、今年度は21名(中学9名、高校12名)となり8名の増となった。 【派遣実績】 高校生：3名、中学生：1名  アジア圏内交流事業については、前年度応募14名に対し、24名(小学23名、中学1名)で、10名の増となった。 【派遣実績】 小学生：7名中学生：3名  両事業ともに国際性を育むうえで、児童生徒にとってより良い事業となった。 また、帰国後の報告会や学推実践発表大会においても、報告を行った。	アメリカホームステイについては、うんな中学校枠として、2枠を増やした。学校と連携して人材の選定に努める必要がある。  アジア交流事業については、村立中学校5校が、うんな中学校の1校に統合となることから派遣枠として2名減にした。  両事業ともに事業の効果を高めるため、各学校と連携し、周知を徹底することで、応募者増に努めること。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業 (瀬良垣)  No.3	自然生活体験で自然にふれあうことにより、自然に親しみ、仲間と協力することをおして社会性を身につけ、また、生活に必要な基礎的技能を身につけ、自立を促し健康で心豊かな青少年の育成を図る。	本事業をスムーズに実施するためにもジュニアリーダーの育成は不可欠である。 本事業に参加した児童に対して今後ジュニアリーダーに加入するよう促していくこと。	村子連と連携し、関係事業に参加させることでジュニアリーダー育成に努めた。 また、事業実施においては、参加者の安全確保のため、村スポーツ推進委員や村給食センター職員、村当局と連携し職員動員に取り組んだ。	今年度も大きな事故もなく、事業を実施することができた。 <b>【実績】(前年度)</b> 6年生:32名(30) ジュニアリーダー:21名(21) スタッフ:83名(延べ)(85) 教育委員会:47名(46) 村職員:24名(27) スポーツ推進員:12名(12)	本事業をスムーズに実施するためには、ジュニアリーダーの育成やスタッフの確保は不可欠であることから、今後も村子連と連携を図り、ジュニアリーダーの育成に努め、また、村当局と連携してスタッフの確保に努めていくこと。	A	①現状の内容で継続
成人式事業 (瀬良垣)  No.4	新成人の新たな門出を激励すると共に、社会を構成する成人としての自覚と責任を認識し、住みよい村づくりへの意識の向上を図る。	式典会場変更の検討。 式典終了後の祝賀会の実施についての検討。	今年度は、式典会場の変更及び式典後の祝賀会を廃止した。	式典会場の変更や祝賀会廃止に伴う苦情等もなく実施することができた。 <b>【実績】(前年度)</b> 新成人該当者:146名(117) 成人式参加者:96名(91) 参加率:65.8%(77.8%)	祝賀会廃止に伴い、式典会内容の検討。 出演団体の検討や時間配分等の検討を要する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
社会教育教室 (うんな大学) (全10回) (瀬良垣)  No.5	本村の教育資源・人材を最大限に活用して学習することで、村民の生涯学習意欲の意識向上の機会とする。	地域人材を活用し、しまくとぅば普及につなげることを目的に講座を実施している。地域学習塾とも連携し実施したい。	村広報誌、公民館等へのポスター掲示や村ホームページを活用した。 特に、村ホームページについては、随時、講座の実施予定について掲載し、周知を図った。 今後も、しまくとぅばの普及については、文化係や村文化協会と連携していく。	◎アンガーマネジメント教室(全5回) 【実績】52名(延べ)  ◎生涯学習発掘教室(全5回) ・旬野菜のチカラ教室(3回)18名(延べ) ・終活を考える教室(2回)17名(延べ) 【実績】35名(延べ) (前年度)全6回:86名(延べ)	今後も県生涯学習講座や近隣市町村等から情報を収集し、事業目標に沿った講座を設定していくこと。	A	①現状の内容で継続
いきいき女性教室 (全5回) (瀬良垣)  No.6	学習機会を通して資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習啓発の場とする教室を開催する。	前年度受講者の多かった講座を引き続き実施したことで参加者増につなげられた。 今後も他市町村から情報収集し、多種多様な講座を設定していくこと。	村広報誌、公民館等へのポスター掲示や村ホームページを活用した。 特に、村ホームページについては、随時講座の実施予定について掲載し、周知を図った。	◎紙刺繍カードづくり教室(全2回) 【実績】11名(延べ) ◎わらいヨガ教室(全1回) 【実績】15名(延べ) ◎楽読教室(全2回) 【実績】20名(延べ)  (前年度)全5回:86名(延べ)	今後も県生涯学習講座や近隣市町村等から情報収集し、事業目的に沿った講座を設定していくこと。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
地域リーダー研修 (全1回) (瀬良垣) No.7	組織づくり支援・地域交流活性化支援・リーダー人材育成支援・就業意識向上支援	今後も社会教育団体等と協力して、本研修を実施し、地域リーダー育成に取り組むこと。	村PTA連合会と連携し、研修を実施した。	各校PTA会員及び役員を中心に研修を実施した。 ◎家庭教育講話 講師：末吉廣志 テーマ：薬物乱用防止 【実績】受講者32名 (前年度)講師：藤波潔(受講者：30名) テーマ：これからの「学力」と大学入試改革	社会教育団体等と協力し、研修を実施することで、引き続き地域リーダー育成に取り組むこと。	A	①現状の内容で継続
楽しく子育て教室 (全6回) (瀬良垣) No.8	子育てに必要な生活習慣の大切さを学び、家庭教育の基礎づくり・仲間づくり・親子のふれ合いや絆を深める場とし、子育てに悩んでいる受講生間の交流の場とする。	今後も事業の周知徹底を図り、受講生の増加につとめること。	村広報誌、子育て支援センターや公民館等へのポスター掲示や村ホームページを活用した。 特に、村ホームページについては、随時講座の実施予定について掲載し、周知を図った。	就学前の保護者世帯を対象に事業を実施。 教室に参加した子育て世帯の保護者同士の情報交換の場につながっている。 ・紙刺繍カードづくり(1回)32名 ・子育て講話(2回)40名(延べ) ・乳幼児の緊急対応(1回)43名 ・英語リズム(1回)26名 【実績(全5回)】141名(延べ)	今後も県生涯学習講座や近隣市町村等から情報収集し、事業目的に沿った講座を設定していくこと。	A	①現状の内容で継続
公民館講座 (6講座開設) (瀬良垣) No.9	多様化、高度化する学習ニーズに対応するため、各字公民館の協力を得て、地域住民に対して学習機会を提供するとともに、地域における指導者の養成を図る。	今年度先着順にもどし全講座を実施することができた。 引き続き公民館を活用しより良い公民館講座の実施につなげるため、これまでの実績を添付し、他区の実施した講座の情報共有につとめ、各種講座の開設につなげること。	今年度も、講座募集の際に、これまでの実績を添付し、他区の実施した講座の情報共有につとめ、公民館活用へ繋げるため、村生涯学習成果発表会において、講座の実施状況写真や作品の展示を実施した。	◎南恩納公民館講座 (手芸、料理講座:全10回) 【実績】延べ160名 ◎名嘉真公民館講座 (パソコン講座:全10回) 【実績】延べ69名 ◎安富祖公民館講座 (手芸講座:全10回) 【実績】延べ234名 ◎前兼久公民館講座 (ホイストレーニング講座:全10回) 【実績】延べ193名	公民館講座実施希望団体が増加しており、広く村民へ学習機会を提供するためには、これまでの開設実績を参考に、開設実績の少ない団体を優先的に開設許可するための調整を要する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
				◎宇加地公民館講座 (ヨガ講座:全10回) 【実績】延べ71名 ◎谷茶公民館講座 (手芸講座:全10回) 【実績】延べ76名  (前年度) 前兼久、太田、富着、恩納、喜瀬 武原、富着) 計661名			
人材育成激励金 支給事業(古堅)  No.10	教育、芸術、文化スポーツの分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、スポーツの振興を図る。	対象者の速やかな請求を促すとともに支給までの事務を速やかに行い、派遣等の経費負担の軽減を図ること。	激励金受給対象者の把握、ホームページや学校へ事業周知を行った。また速やかな請求を促すとともに、支給までの事務を速やかに行った。  周知方法 ・ホームページへの掲載 ・自治会や学校への周知 ・マスコミ等の報道での対象者把握	スポーツ競技は56件の支給があった。(前年度74件) ○スポーツ面(前年度) ・ソフトボール 学生:7件(10)、一般:3件(22) ・バドミントン 学生:15件(19)、一般:1件(1) ・カヌー 学生:3件(3)、一般:0件(0) ・ゴルフ 学生:10件(9)、一般:0件(0) ・野球 学生:7件(5)、一般:0件(0) ・水泳 学生:3件(3)、一般:0件(0) ・陸上 学生:3件(0)、一般:0件(0) ・サッカー 学生:1件(0)、一般:0件(0)	事業周知の徹底と対象者を把握するとともに請求から支給まで速やかに事務手続きを行うこと。 また支給方法が現金のみとなっており、受取のための日程調整や来庁する必要がある。口座振替等の支給方法も検討し、必要であれば要綱の見直しを行うこと。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
				<ul style="list-style-type: none"> <li>•空手 学生:1件(0)、一般:0件(0)</li> <li>•剣道 学生:2件(0)、一般:0件(0)</li>   <li>文化面は8件の支給があった。(前年度9件)</li> <li>○文化面</li> <li>•書道(グローバルリーダー育成海外短期研修事業・沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム,派遣先:台湾) 学生:2件(0)、一般0件(0)</li> <li>•ダンス(日本高校ダンス選手権) 学生:4件(1)、一般0件(0)</li> <li>•機械工学(ロボットコンテスト) 学生:1(0)、一般0件(0)</li> <li>•ピアノ(日本ハッハコンクール) 学生:1(0)、一般0件(0)</li> </ul>			



事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
文化情報センター業務(呉屋) No.12	文化情報センターの開館と開館後の必要な事務を行うと共に、住民に対し、図書や資料を通じて情報提供サービスに取り組み、読書活動を推進し村内の様々な情報を提供する。	①友好図書館との交流  ②適正な資料管理を行う  ③図書の特集コーナー等で利用促進を行う	①友好図書館(石狩市民図書館)との交流として石狩からおはなしボランティアを招聘し、お話を開催、本村のボランティアとの交流を図る取り組みを進めていた。 (コロナにより中止)  ②継続的に資料の購入・収集、登録に取り組んだ  ③継続的な本の特集コーナー等の設置や関係機関と連携したイベント等の実施に取り組んだ	①石狩市関連本 213冊  ②年間増加冊数 10,018冊  ③コロナの影響で開館日数が減ったため入館者が前年度減だが貸出し人数と冊数は依然開館以降伸び続けており、利用者からも高い評価を得ている。  入館者数 85,271人 (前年度：88,788人) 貸出人数 36,868人 (前年度：35,367人) 貸出冊数 139,722冊 (前年度：132,597冊) 登録人数 1,182人 (前年度：1,428人) 蔵書累計冊数 84,238冊(前	①継続的な情報の発信、交換を行い両市村の情報拠点の場になるように努める  ②村民の要求に合わせた蔵書構築に努める  ③村内在住利用者の利用促進	S	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
		<p>④ホームページへのアクセスを増やし、さらなる充実を図る</p> <p>⑤継続的にイベントや企画特集を行う。</p>	<p>④各種イベントの実施や図書の特集コーナーの設置に取り組んだ</p> <p>⑤施設内でのポスターの掲示、ホームページや村広報誌でのイベントの周知に取り組んだ</p>	<p>年度：73, 675 冊) 開館日数：265 日 (前年度 275 日) ※コロナにより臨時休館及び短縮開館、条件付き開館も行った。</p> <p>④本の特集 「首里城 消失と再生の歴史」他 113 テーマ</p> <p>⑤企画イベント (1, 138 人参加) 「サンゴのカルタ大会」 「図書館ビンゴ」 他合計 31 回実施 (コロナのため中止 2) ○七夕ライブラリーコンサート 64 人参加 ○真藤順丈講演会 約 139 人参加 ○おんなの駅・博物館・文化情報センター合同イベント 缶バッジをつくろう 84 人参加 ○おはなし会の定期的な開催 毎週土曜日実施 43 回 502 人 (前年度 45 計 467 人参加)</p>	<p>④時事的话题にも留意し住民の生活に役立つ情報をわかりやすく提供する</p> <p>⑤子供からお年寄りまですべての世代が参加のしやすいイベントの企画と実行に努める</p>		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
		<p>⑥カルタの出版（サンゴ関連事業）</p> <p>⑦レファレンス体制の充実</p> <p>⑧子どもの読書活動の推進</p>	<p>⑥サンゴ関連事業としてカルタ出版を行った。引き続き絵本の販売も行っている。</p> <p>⑦レファレンス協同データベースの事例登録が多かったことで国立国会図書館より礼状を2年連続で授与された</p> <p>⑧読書通帳機を導入し読書意欲の推進を図った。</p>	<p>⑥絵本 売上冊数：252冊 売上収入：241,405円</p> <p>かるた 売上点数：391点 売上収入：338,328円</p> <p>⑦事例登録109件</p> <p>⑧読書通帳：321名発行 (累計：625人)</p> <p>⑨Library of the year 2019 で優秀賞を受賞 沖縄県内で初の受賞となった。</p>	<p>⑥サンゴの村宣言に伴う村の取り組みの周知に努める</p> <p>⑦レファレンスの周知に取り組み職員のスキルアップも図る</p> <p>⑧幼児・児童の読書活動の推進を図る。</p> <p>⑨評価された点となった「観光と住民サービスのバランスの良いサービス」を継続する。</p>		

(3) 社会体育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実(古堅) (ウォーキングフェスタ)  No.1-1	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、健康増進と相互の親睦を図る。	8 kmコース、5 kmコースで実施したが、8 kmコースは距離が有り、さらに高低差があるため、若い男性の少数しか参加がなかった。 コース設定から福祉健康課と連携し、より多くの参加が見込める内容を検討する。	福祉健康課等と連携し、コース設定や給水ポイントの配置、スポーツ推進委員の役割分担を行った。	健康福祉まつりでウォーキングフェスタを実施し健康増進の意識高揚につながった。  ウォーキングフェスタ (前年度) 参加者：120名(120)	健康保険課と協議し、万座毛や海岸沿いを通るコース設定等、より多くの参加が見込める内容を検討する。		
(スポーツ教室)  No.1-2	村民に対し、スポーツをする機会を提供し、ニュースポーツ体験や健康運動指導、交流をとおして健康増進を図る。	事業を継続し、アンケート調査の結果を踏まえ、参加者のニーズに合わせたメニューを講師と調整し実施する。	夜間に教室を開催し、「リンパマッサージ」教室を南部地区5回、北部地区で5回開催した。また、教室終了後、次年度以降のスポーツ教室の参考とするため、参加者から開催時期や時間、内容等の要望や教室の実施方法に関するアンケート調査を行った。	参加者の健康増進への意識高揚につながった。  北部地区(前年度) 延べ82名(126)計5回(5) 南部地区(前年度) 延べ40名(40)計5回(5)	事業を継続し、アンケート調査の結果を踏まえ、開催場所や開始時間、メニューを講師やスポーツ推進員と検討し実施する。	B	①現状の内容で継続
(壮年バレーボール)  No.1-3	壮年層の村民に対し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図ること。また引き続き参加チームを増やすよう努めること。	スポーツ推進委員定例会での大会調整、教育委員会事業年間日程表による周知活動を行った。	参加チームに大会運営協力(審判員)をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。  申込チーム：9チーム H30(8チーム)	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図ること。また引き続き参加チームを増やすよう努めること。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
(壮年フットボール) (古堅) No.1-4	壮年層の村民に対し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。	スポーツ推進委員定例会での大会に向けての調整、年間日程表による周知活動を行った。	参加チームに大会運営協力をしてもらい、スムーズな大会運営ができた。  参加チーム：15チーム H30(16チーム)	事業を継続し、スポーツをする機会を提供し、交流をとおして健康増進を図る。また9月開催で暑さによる熱中症の懸念があり、開催時期の見直しを検討する。		
(ミニバレー) (古堅) No.1-5	ミニバレーを通してスポーツ技術の向上及び健康増進の意識高揚、併せて村民の交流を図る。	村内一斉放送及び各公民館、団体へチラシ配布により参加チームを募ったが、申込が少なく実施できなかった。今後事業を見直すとともに、より参加しやすい種目と日程を再度検討する。	事業廃止	事業廃止	事業廃止		
スポーツ推進委員の資質向上 (古堅) No.2	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、スポーツ推進委員個々の資質の向上を促す。	県や中頭地区での研修への積極的な参加を促し、委員の資質向上に努めるとともに、研修の成果を自主的に発揮するよう村各種事業を企画・運営する。	県や中頭地区での研修へ積極的に参加した。 また、村で行われる大会やイベント等に繋がる研修を自ら企画し実施した。	様々な事業でスポーツ推進委員が中心になって大会運営ができています。個々のスポーツ推進委員の資質向上につながった。  スポーツ推進委員活動数 R1：356名 H30：381名 H29：324名	県や中頭地区での研修への積極的な参加を促し、委員の資質向上に努めるとともに、研修の成果を各委員が自主的に発揮するよう村各種事業を企画・運営する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
恩納村体育協会、 国頭郡体育協会 の活動支援 (古堅)  No.3	恩納村及び国頭郡の体 育協会に補助金を交付 し、その活動を支援す ることによりスポーツ の振興を図る。	引き続き体協主催 の事業展開及び体育 施設の利用等の支援 を継続し、各種目の 競技力向上とスポー ツ振興を支援する。	スポーツ振興、競技力 向上に繋がるような事業 展開の提案、施設の有効 活用等の指導助言を行っ た。	野球、バドミントン、卓 球、ボウリングなどで優秀 な成績を収めた。	引き続き体協主催の 事業展開及び体育施設 の利用等の支援を継続 し、各種目の競技力向 上とスポーツ振興を支 援する。	B	①現状の内 容で継続
村立小中学校体 育施設（プール） の一般開故事業 (古堅)  No.4	夏休み期間中、学校施 設を有効活用し、村民 の泳力及び体力の向上 を図る。	水泳教室を今後も 継続していくととも に、簡易テント設置 による熱中症対策を 行い、安全なプール 開放を実施する。	利用者及び保護者の熱 中症対策として各校に簡 易テントを設置した。ま た、プール管理人と連携 しこまめに水分補給や休 憩を取るよう、利用者へ 促した。	教室実施数及び参加者 仲泊校 3回(48名) (前年度:安富祖校3回54名) 夏休みプール開故事業利 用延人数(前年度) 全校:912名(875) 安富祖:165名(137) 喜瀬武原:23名(17) 恩納:298名(288) 仲泊:152名(296) 山田:274名(137)	夏休みプール一般開 放と水泳教室を継続す るとともに、熱中症予 防や事故防止対策をプ ール管理人と連携しな がら行い、安全なプー ル開放を実施する。	B	①現状の内 容で継続
各種団体等県外 派遣補助事業 (古堅)  No.5	村民のスポーツに対 する意欲を向上させ、 各種球技、競技の振興 を図る。	事業を継続し、該 当する団体・個人等 の情報収集を行うと ともに、学校や学校 教育課と連携し、速 やかな申請手続きを 促す。	派遣事業に該当する団 体の情報収集、学校や公 民館への情報提供、周知 徹底に努めた。また学校 教育課や学校と連携し、 速やかな申請手続きを行 った。	○小中学生(前年度) 水泳 2件(2) (個人2)(2) バドミントン 2件(5) (団体2)(個人4、団体1) タグラグビー 1件(1) (団体1)(1) 空手 1件(2) (個人1)(1)	事業を継続し、該当 する団体・個人等の情 報収集を行うととも に、学校や学校教育課 と連携し、速やかな申 請手続きを促す。	B	①現状の内 容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
村体育施設維持 管理事業(古堅)  No.6	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	施設の維持管理徹底に努めていくとともに、活用しやすい施設運営、周知活動を行っていきけるよう指定管理者と綿密に連携する。 また指定管理者が2年目となるので、1年間の経験を生かし、自主事業等で施設の立地や特性を生かした企画、実施へ向けて指導、助言を行う。 サムスンライオンズキャンプ期間中の一般開放について、練習休日や夜間の利用等を検討する。	施設利用率向上に向けて施設維持管理徹底の指導、助言を行った。 また、定期的に調整会議を行い、問題解決に向けた取組、村の要望等を伝え、指定管理側との意思疎通を図った。 また施設を活用した村行事日程やプロスポーツ団体のキャンプ受け入れの為に施設整備や体制づくりを連携して行った。	施設維持管理については、利用者からも好評で利用数も高い水準を維持している。  R1 利用者 127,658 人 利用回数 (2,640 回) H30 利用者 122,159 人 利用回数 (2,296 回) ○自主事業 ・施設利用者向け軽食、氷、石灰販売。 ・各種教室 ● 酵素作り、月桃化粧水作り、蚊取り線香虫よけスプレー作り。 ・ イベント ● サムスンライオンズボール贈呈式、体育の日トレーニングジム無料開放、星空観察会、女子硬式野球大会共催、中学校硬式野球大会共催、沖縄チャリティーラン共催。 ● 参加人数合計 721 人	施設の維持管理徹底とプロ野球やスポーツ合宿等の受入について村と進呈管理者で綿密に連携する。また利用者アンケート等を実施し、村民等が活用しやすい施設運営や環境を提供する。また自主事業を継続し、多くの村民が参加できるよう広く周知する。	A	①現状の内容で継続

(4) 学力向上推進委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
学力向上推進事業 地域学習塾支援 (米田・饒波) No.1-1	学力向上推進委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら心・知・体の子どもの育成を図る。	各地区の取り組みの差を解消するために各自治会との連携を深める。	区長との連携を図り、保護者理解を推進し、実施のための支援を継続する。 長期休業中は、特別支援教育支援員を講師として派遣する。	特別支援教育支援員を派遣することで、児童理解の上での学習指導の充実が図られた。	子どもたちの自主性を引き出す取組の充実を図る。		
学力向上推進事業 石狩市中学生交流 (饒波) No.1-2	地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※隔年ごとに派遣、受入れで実施する。	石狩市と早めに事務調整を行い、体験プログラムや恩納村の民泊家庭の受け入れ体制を十分に整える。	石狩市中学生を対象に交流事業として、恩納村へ20名(前年度：19名)受け入れた。 北海道との違いを体験できるプログラムを計画。	仲泊中学校との交流や民泊、戦跡巡りや海洋体験をプログラムに取り入れ風土や歴史、文化の違いを体験することができた。	引き続き、石狩市との事前調整を早めに行い、互いの地理、歴史、文化の違いについて学ぶことのできる充実したプログラムを計画する。	A	①現状の内容で継続
講演会 (米田) No.1-3	教職員や保護者の資質の向上に資することを目的として著名人を招き、講演会を開催する。	講演会の実施について、目的を再検討し開催日程の調整を行う。	実践報告会等の時間内の実施、地域の取組発表の充実を図るなどの内容の精選を行う機会として今回は、講演会の実施を見合わせた。	学校や地域の実践報告は充実したが、村民が広義に教育を考える機会として講演会の実施は必要であることが分かった。	恩納村教育の日は、多くの村民が教育を考える機会として、設定されていることから、わかりやすい講演内容の講演会の実施は必要である。		
県外先進地視察研修 (米田・具志堅) No.1-4	学習内容の定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。	学力や教育課程に関する中央説明会に参加し、内容を各学校へ周知する。	小中学校の新学習指導要領の完全実施に向け、教育課程について研修会に参加した。	新学習指導要領の完全実施に向け、資料等を持ち帰り、新教育課程編成につなげることができた。	コミュニティスクール先進校等の視察研修が必要である。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
学推実践報告会 (米田・具志堅) No.1-5	恩納村学力向上推進の取組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する。	日程等、持ち方の工夫を行い、保護者や教諭以外の学校関係者の参加者を増やす。	実践報告会の持ち方を工夫し、児童の発表や地域の取組発表により、取組が関係者の身近なものとしてとらえられるようにした。	幼小中各学校や地域の取組みの報告により、関係者が身近な取組を意識化し、効果ある実践の共有化を図る事ができた。	全体会の実施と各学校の実施について考察が必要である。		
諸検定料支援 (饒波) No.1-6	全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力の意識化と定着を図る。	半額補助の事務手続きが煩雑なので事務負担軽減のため支援方法の簡略化を図る。	各学校教頭への聞き取り調査等を行い、手続きの簡略化に向けた改善を図った。令和2年度から、小、中で受検会場が分かれるため、継続して各学校との調整が必要である。	受験者数(合格者数) 英検：403名(139名) (合格率：34.5%) 漢検：484名(277名) (合格率：57.2%) 数検：221名(116名) (合格率：52.5%) 合格率 小学校 65%(72%) 中学校 32%(46%) 全体 49%(60%)	補助をすることで受検希望者数に定着が見られるが、合格率が低いため、受検の意義、合格への意識付けが必要である。		
未来塾 (米田) No.1-7	高校受験を控えた中学校3年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。	講師の確保が難航し9月開講ができなかったため、名城大学と連携を深め早めに講師を確保する。	大学との連携により、生徒の意欲の向上に対する取り組みについて共通理解を図った。	生徒が意欲的に塾に参加することができ、高校受験に対する意識が高まった。 令和元年度 進学率：100% (平成30年度：96.9%) (平成29年度：96.5%) (平成28年度：95.5%)	うんな中学校開校に併せて、全学年の生徒対象とする方向が必要である。		

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
スキルアップ研修 (具志堅)  No.1-8	各学年・教科1人体制という課題を解決するため、村内職員が協力して協議し、互いの資質・能力を高めるために行う。	統合中学校に向けたスキルアップ研修会の在り方の検討と次年度からの小学校のスキルアップ研修会の持ち方を充実した形にしていく。	授業実践を中心とした取組みを行い、村教科支援訪問で授業実践ができた。また、指導案検討から各校の管理職を中心に指導助言をおこなうことにより、教材研究の充実が図られた。	教科支援訪問で指導助言を行うことで、教員個人のスキルアップが図られた。また各部署の取組みを紹介することで、情報共有ができた。	併置校から単独校へ移行するのにもない、授業の質を落とすことが無いよう魅力ある授業づくりのための支援の充実を図る。		
各種コンクール (米田・具志堅) No.1-9	各種コンクール事業を開催することにより、児童生徒に発表の機会を与える。	作品出品に対する学校間の取組みの差を解消する。	年度当初の校長会や教頭会で作品募集に関して、教諭意識を高めるよう要請した。	作品出展の意義が意識化され、積極的な出展が見られた。また、作品の質においても向上が見られた。	作品出展による発表の意義の高揚を図り、さらなる積極的な参加を推進する。		

(5) 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
博物館運営 (崎原・後藤)  No.1	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会を通して、ふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図る。	引き続き、社会教育施設として、村民により広く活用してもらえるよう文化情報センターや関係機関と連携しながら、展示会・講座などを企画していく。  開館20周年が近づいてきているので、記念事業等の実施に向け、検討を行っている。  また、建築から20年が経過しようとしている施設のため、展示照明などの館内照明、換気設備、出入口ドアなど各所に不具合が見られるが、施設・設備の更新や改修を行いながら、博物館利用者が利用しやすいように施設整備に取り組む。	・多様な内容の展示会や講座を企画し、開催した。 ・学校の利用では出前講座などを実施。 ・サークルの活動支援(練習場所、発表会開催の支援)等で、村民の施設使用の増加を図った。また、各種団体等への展示ホールや研修室の貸出で施設使用の促進を図った。 ・常設第2展示室リニューアル計画の推進。	博物館利用者数 16,229人 (前年度 18,654人、2,425人減) 入館者 13,979人 (前年度 15,564人、1,585人減) 施設等使用者 2,250人 (前年度 3,090人、840人減) ・主に6回の展示会、計4回の講座・イベントなどを実施。外部団体の様々な施設利用もでき、施設利用を促進することができた。 ・常設第2展示室のリニューアル計画を検討するとともに、他施設の視察等情報収集を行った。	令和3年5月1日の開館20周年に向けて、記念事業や常設第2展示室のリニューアルを実施する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
企画展・展示会 (後藤)  No.2	博物館が所蔵する資料や文化財などの資料の活用のほか、地域と連携しながら、恩納村の情報発信し、村の歴史や文化に対する理解を深めてもらう場とする。	博物館が収蔵する民具資料や沖縄戦関係資料などを展示会にて活用することが出来た。今後も、継続して自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や調査・研究成果を展示に反映させるとともに、開館20周年記念事業に向け、展示内容の充実に努め、博物館が収蔵している資料の公開・活用の方法を検討していく。 村内移動展については今後も開催の機会が設けられるよう検討していく。	年6回の企画展の開催のほか、外部団体との協力事業として展示会の受け入れを実施。 ①パネル展「写真で見る恩納村の時代の移り変わり～昭和と平成～」 村内の様子を昭和と平成に撮影した写真パネルで紹介。4/27～5/16 ②恩納村史編さん係・文化係（学芸・文化財）共同開催 慰霊の日企画展「恩納村に近づく戦争の足音」 文化財、学芸、村史の3係合同の展示会を開催。6/18～7/7 ③企画展「みぢかな植物たち～恩納の植物～」 村内の植生や植物を紹介する展示会。7/19～9/29 ④「第48回沖縄県芸術文化祭・写真選抜展」 県芸祭写真部門の作品を展示。12/11～12/25 ⑤企画展「新収蔵品展【平成30年度収蔵資料】」 H30年度に寄贈や収集し	①パネル展「写真で見る恩納村の時代の移り変わり～昭和と平成～」 来場者 847人 ②恩納村史編さん係・文化係（学芸・文化財）共同開催 慰霊の日企画展「恩納村に近づく戦争の足音」 来場者 1,048人。 ③企画展「みぢかな植物たち～恩納の植物～」 来場者 2,999人。 ④「第48回沖縄県芸術文化祭・写真選抜展」 来場者 593人。 ⑤企画展「新収蔵品展【平成30年度収蔵資料】」 来場者 758人。	今後も博物館資料などを活用しながら、展示会をとおして、恩納村の歴史、文化、自然等の情報発信を行っていく。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
			<p>た資料を展示。2/4～3/8</p> <p>⑥企画展「琉球芸能小道具と衣裳展 in Onna」 組踊道具。衣裳製作修理技術保存会と共同開催。 第1期：3/18～4/7</p> <p>【協力事業】</p> <p>①沖印友好協会主催「日印文化交流展」 9/28、29 開催</p> <p>②恩納村観光協会主催「おんなの魅力フォトコンテスト」 1/10～26 開催</p> <p>③沖縄県身体障害者福祉協会主催「第59回沖縄県身体障害者福祉展」 1/22～25 開催</p>	<p>⑥企画展「琉球芸能小道具と衣裳展 in Onna」 来場者 472 人 (R1 年度中)</p> <p>【協力事業】</p> <p>①沖印友好協会主催「日印文化交流展」 来場者 98 名。</p> <p>②恩納村観光協会主催「おんなの魅力フォトコンテスト」 来場者 1,344 名 応募者数 125 名 作品数 279 点</p> <p>③沖縄県身体障害者福祉協会主催「第59回沖縄県身体障害者福祉展」 来場者約 600 人</p>			

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
博物館講座 (後藤)  No.3	博物館主催の講座を通して、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	「バーキ作り」では継続した開催によって、受講者から講師の一員として指導できる方が育ってきている。今後も人材育成に貢献できるよう取り組むとともに、幅広い世代が参加できるようなメニューを企画していく。	児童・生徒向け、親子向け、大人向けの講座を開催した。 ①博物館講座「葉っぱがおもちゃに変身！～植物でおもちゃを作ってみよう～」 親子向け。8/17開催。アダン・マーニを使ったおもちゃ作り。定員20名。 ②博物館講座「葉脈標本を作ろう！」。 村内小学3年生～中学生対象。9/23開催。定員15名。 ③博物館講座「バーキ作り」 18歳以上対象。11/30、12/1開催。	①博物館講座「葉っぱがおもちゃに変身！～植物でおもちゃを作ってみよう～」 参加者11組25名。申込多数のため、定員増員。 ②博物館講座「葉脈標本を作ろう！」参加者15名。 ③博物館講座「バーキ作り」 参加者16名（前年度8名）。うち、新規参加者10名、2回目5名、経験者1名。	令和元年度に実施した映像記録保存事業の成果などを活用した講演会等を実施していく。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
サンセットコンサート (後藤) No.4	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	会場で実施しているアンケート結果を踏まえながら、恩納村博物館の特色ある企画を実施していく。	企画展「琉球芸能小道具と衣裳展 in Onna」の開催に合わせ、小道具と琉球芸能にスポットを当てた公演を企画。	「伝統芸能小道具と衣裳の世界」 ※新型コロナウイルス感染症のため中止。	これまでの来場者アンケート結果を踏まえながら、恩納村博物館の特色ある企画を実施していく。	中止	①現状の内容で継続 事業評価数 (除く)
『恩納村博物館紀要』(第11号)の刊行(後藤) No.5	恩納村に関する自然、歴史、文化、民俗、文化財等に関する調査成果や報告を掲載した紀要を作成する。『恩納村博物館年報』と隔年にて発刊。	村に関する調査・研究の情報を発信できるよう恩納村博物館関係者から、原稿を募集する。	第11号の刊行に向け、4名の執筆者が原稿を作成。	『恩納村博物館紀要』第11号を刊行した。沖縄戦、歴史、芸能に関する原稿を掲載した。	今後も恩納村に関する自然、歴史、文化、民俗、文化財等に関する調査成果や報告を掲載した紀要を作成する。	B	①現状の内容で継続
地域伝統芸能等保存事業 (後藤) No.6	一般財団法人「地域創造」の事業を活用し、地域に伝承される伝統芸能等の映像を記録することにより、今後の更なる伝統芸能の伝承及び地域活動を支援する。	事業の実施にあたり、監修者や地域、撮影業者との連携を密にし、円滑な事業の推進に努め、成果品を完成させる。	地域や関係者と連携し、瀬良垣区の豊年祭の映像記録保存事業を実施した。	成果品『瀬良垣の豊年祭』(「二才団の十五夜(組織編)」と「踊りを伝える(芸態編)」の2枚組)が完成した。	今後、成果品を活用するとともに、助成事業を活用し、事業を継続していく。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
文化財普及事業 (大城)  No.7	恩納村の共有財産である文化財の普及及び活用を目的とし、文化財保護愛護思想の啓発を図る。	参加者への当日のルートが書かれた資料等の配布を検討し、村内文化財の公開・活用を図るため、文化財普及事業を継続して実施する。	<p>①歴史ロードを歩こう事業 適切な安全管理を目標に実施し、配布資料も活用した。</p> <p>②恩納村戦跡めぐり事業 村内の戦跡めぐりを村内公募で実施。</p> <p>③サンゴ礁が育んだ恩納村の暮らし展 サンゴの村宣言を受け、サンゴ礁と人々との関わりや自然環境、サンゴ再生事業等を紹介。</p> <p>④慰霊の日展示会 文化財、学芸、村史の3係合同の展示会を開催。</p> <p>⑤出前講座 山田中学校校区内文化財巡り 山田中学校校区内の文化財めぐりを実施。</p> <p>⑥出前講座 山田中学校発掘調査体験学習(山田城跡) 山田城跡の見学及び発掘調査体験を実施。</p> <p>⑦県市町村連携事業 掘り出された戦前のうんな 県と連携し、合同の展示会を開催。</p>	<p>①歴史ロードを歩こう事業 参加者 22 人 前年度(H30)参加者：49 名</p> <p>②恩納村戦跡めぐり 参加者 7 人</p> <p>③サンゴ礁が育んだ恩納村の暮らし展 見学者：1,517 人 前年度(H30)見学者：2,139 人</p> <p>④慰霊の日展示会 見学者：1,048 人</p> <p>⑤出前講座 山田中学校校区内文化財巡り 参加者：29 人</p> <p>⑥出前講座 山田中学校発掘調査体験学習(山田城跡) 参加者：26 人</p> <p>⑦県市町村連携事業 掘り出された戦前のうんな 見学者：1370 人</p>	参加者アンケートを参考により分かりやすい資料等の配布や情報媒体への告知を幅広く活用し、村内文化財の公開・活用を図るために文化財普及事業を継続して実施する。	A	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
			<p>⑧三町村連携事業 掘り出された近世・近代の金武・宜野座・恩納 三市町村合同で展示会を開催。</p> <p>⑨土器作り講座 講師を招聘し、土器作り講座を開催。</p> <p>⑩人々の祈り展-うんなの御嶽と拝所- 村内の御嶽と拝所に関する企画展を開催。</p>	<p>⑧三町村連携事業 掘り出された近世・近代の金武・宜野座・恩納 見学者:769人</p> <p>⑨土器作り講座 参加者:21人</p> <p>⑩人々の祈り展-うんなの御嶽と拝所- 見学者:758人</p>			
山田城跡整備事業(大城) No.8	国指定史跡 山田城跡の整備に向けて取り組む。	整備に向けて公有地化の実施及び整備に向けて遺跡の性格を把握するための試掘確認調査を実施する。	山田城跡重要遺構確認調査を実施し、6ヶ所の調査を行う。公有地化事業申請を行う。	山田城跡重要遺構確認調査を実施し、6ヶ所の調査を行った。次年度からの公有地化事業の申請を実施した。	山田城跡重要遺構確認調査及び公有地化事業を実施する。	B	①現状の内容で継続
恩納村文化財指定業務(大城) No.9	村内に所在する貴重な文化財の中から村指定候補を調査、検討し村指定文化財の増加を図る。 恩納村指定文化財 ① 史跡 真栄田の一里塚	村内の各集落にある文化財の基礎情報収集を実施し、村指定候補を検討し、村指定文化財の増加を継続して目指す。	谷茶区のキオクボード事業を実施し、文化財の情報収集を実施する。	谷茶区の文化財調査を実施し、指定候補となる文化財の情報収集を実施した。	埋蔵文化財や天然記念物の村指定文化財がないため、基礎情報を収集し、村指定候補を検討及び村指定文化財の増加を図るため、継続して実施する。	C	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
	② 有形文化財(民俗) 浜崎御嶽、カンジャガー、ウドウイガマ、南恩納の籠 ③歴史資料 唐人墓の墓碑、恩納村の印部石、国頭郡恩納間切各村全図及び字図等 ④書跡 徐保光詩文、王文治詩文 計 10 件						

(6) 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
栄養教室の開催 (比嘉)  No.1	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。 <b>【学校給食の目的】</b> ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進をはかること ② 日常生活における食育について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う ⑤ 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについて理解を深め、勤労を	継続して各学校での給食時間を利用した巡回指導、食育授業、親子試食会食育講話を実施し栄養指導の充実を図る。 小学校1年～4年生については村内全小学校での食育授業の定着を図る。	食に関する年間指導計画を作成し各学校への周知を図り、副読本活用し、食育授業を行った。各学校で給食時間を利用し栄養指導を行った。 各学校で親子試食会を行った。 安富祖、仲泊、山田小学校では小1年～4年生についても食育事業を実施した。  食育授業 村内各幼稚園 各1回 安富祖小学校 6回 仲泊小学校 6回 山田小学校 6回 (前年度) 村内各幼稚園 各1回 安富祖小学校 6回 安富祖中学校 1回	巡回指導、食育授業、親子試食会を実施し親子で食に対する関心を持つことができた。 小学校低学年では、栄養素(赤、黄、緑)や食物に関する興味を持つことが出来た。	継続して各学校と連携して、食育年間計画を作成し食育指導を行う。小学校低学年の、食育事業の実施。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
	<p>重んずる態度を養うこと</p> <p>⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること</p> <p>⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと</p>						
<p>村産食材の積極的な活用(比嘉)</p> <p>No.2</p>	<p>安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進</p>	<p>今後も継続して安定的な食材の確保のため、おんなの駅、農水関係者と連携を図る。</p>	<p>年間を通して、地場産物を使用した。</p> <p>J Aより安富祖米を購入し地産地消の推進を図った。(※コクゾウムシの発生により3ヶ月程使用できない期間があった。)</p> <p>恩納村産のモズク、アーサの使用。</p> <p>パッションフルーツ生産者、おんなの駅職員を招いてのふれあい給食(仲泊校)の実施。</p>	<p>地場産物をおんなの駅や農水関係者と連携を図り提供することが出来た。</p> <p>安富祖米年間使用量 4,685 kg(4.7t) (前年度:9.1t) 年間使用量の41% (前年度:86.7%)を安富祖米で賄えた。</p>	<p>今後も継続して安定的な食材の確保のため、おんなの駅、農水関係者と連携を図る。</p> <p>安富祖米の納品回数、数量調整、保管方法の見直しを行い、継続して使用していく。</p>	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
給食センター見学の推進(比嘉)  No.3	給食調理の状況を見学させ、その安全性を認識させる。	今後も継続して見学実施にむけた行事調整を行い、「食」に対する関心・感謝の心を育てる。	村教職員研修会において新任教職員の給食センター見学を実施。 幼稚園との調理場見学に向けた事前調整を行い、実施。小、中学校は調整ができなかった。 【見学実施日】 6/24 山田幼稚園 6/25 安富祖幼稚園	幼稚園児の調理場見学を実施し、給食が出来るまでの工程を理解し、給食に対する関心・感謝の心を育てた。 教職員の見学を行い、食器、食缶等の片づけ方の指導が行えた。	今後も継続して見学実施にむけた行事調整を行い、「食」に対する関心・感謝の心を育てる。	B	①現状の内容で継続
給食費徴収率の向上(比嘉)  No.4	安全で質の高い給食の提供するため、給食費の徴収率の向上を図る。 【学校給食費】 (保護者負担) ○学校給食法 第11条第2項  (請求権) ○民法第173条第3号 ※債権を2年間行使しないとき短期消滅時効  (督促手続き) ○民事訴訟法第382条	現年度分給食費徴収率の向上。 【長期未納者対応】 総合教育会議において学校給食費完全無償化の方針が協議され、現状の長期未納者への対応策として法的措置(支払督促)への手続きを検討し、可能な範囲で実施し、無償化に向けて長期未納者への対応を行う 長期未納者への納付指導、納入計画の提案各制度の説明(準要保護、第3子免除、児童手当徴収制度等)	口座振替納付を推奨するため、小学校入学オリエンテーションで口座振替依頼書を配布し、周知を行った。 滞納者に対し、電話督促や督促状発送等督促機会を増やした。 長期未納者に対し、名護簡易裁判所からの支払督促申立を行った。 【支払督促】令和2年3月 支払督促申立件数:12件 (内訳) ・完納:3件 ・分割相談:2件 ・異議申立:3件 ・未送達:1件 ・仮執行宣言付:3件	支払督促申立 完納:3件 777,400円 納付済 納付相談:2件 ○現年度分徴収率※収入額 (令和2年5月31日現在) 99.11%(R1)※41,633,115円 ※選付分含む(85件 404,330円) 97.00%(H30) 2.11%増 ○過年度分徴収率 36.52%(R1)※1,186,025円 31.76%(H30) 4.76%増 【令和元年度決算】 収入:42,819,140円(94.6%) 支出:51,469,040円 差引:△8,649,900円 (差引額の充当内訳) 村助成:5,579,500円 第3子:3,070,400円	長期未納者への納付指導、納入計画の提案各制度の説明をとおして自主納付を促す。 電話連絡や督促に応じない方については、簡易裁判所からの支払督促申立により滞納整理を行う。 上記の支払督促制度(民事訴訟法)を活用し、学校給食の円滑な運営、保護者負担の公平性、公正性を確保する。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
					強制執行手続きを要するケースが多数になった場合は、会計年度任用職員等の配置を検討する。		
恩納村第3子以降学校給食費免除 (比嘉) No.5	出生率の向上や保護者が安心して子供を産み育てることができる環境づくりを促進するとともに、保護者の負担軽減を図るため、第3子以降の学校給食費免除を実施する。	制度の周知を徹底する。過去に未納がある保護者に対し、児童手当からの徴収制度の利用や、督促機会を増やし、免除できるよう努める。	広報誌、ホームページへの掲載、児童生徒へのチラシの配布により制度の周知を行った。 未申請者への電話連絡や、過去に未納がある保護者に対し、児童手当からの徴収制度を利用し未納分の徴収を行い、免除を実施した。	恩納村第3子以降学校給食費の免除を行い、保護者の負担軽減を図り、併せて徴収率の向上に繋がった。  (対象者) 90名(前年度：93名) 【内訳】 幼稚園児 26名(34名) 小学生 63名(58名) 中学生 1名(1名)  (免除実施数) 82名(前年度：86名) 【内訳】 幼稚園児 26名(31名) 小学生 55名(54名) 中学生 1名(1名)	制度の周知を徹底する。過去に未納がある保護者に対し、児童手当からの徴収制度の利用や、督促機会を増やし、過年度滞納整理を行いながら免除制度を実施する。 次年度より幼稚園及び中学生学校給食費無償化に伴い、第3子以降学校給食費免除対象は、小学生のみとなるので関連事務を適切に行う。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題 (令和元年度の課題)	課題克服に向けた取組み (令和元年度の取組み)	事業の成果 (令和元年度の成果)	今後の課題 (令和2年度の課題)	評価	総合判断
学校給食費完全無償化事業 (石川・比嘉)  No.6	給食費の無償化を実施し、子育て世帯の保護者への経済的負担を軽減し、より子育てしやすい環境の向上を図る。	新規事業	学校給食費完全無償化又は一部無償化に向けて条例、運営要綱等の改正及び保護者等への周知方法を検討した 【段階的無償化】 ・令和2年度～幼・中 【周知方法】 ・保護者(通知) ・村広報 ・マスコミ	学校給食費の段階的無償(幼・中)が決定し、村内在住で村立幼稚園及び中学校へ在籍し、学校給食を提供している園児及び生徒の給食費を段階的に無償化することにより、保護者の経済的負担を軽減することができた。	幼稚園及び中学校の学校給食費の無償化においては教育総合会議での審議の結果、完全無償化の方針が決定したが、限られた財源の中での実施となり、小学生が対象から外れたため、今後も協議を継続し、完全無償化の実施時期を決定する。	A	①現状の内容で継続
恩納村学校給食調理配送業務等民間委託事業 (石川・比嘉)  No.7	学校給食センター職員の退職に伴い、調理及び搬入等に本務職員が不在となるため。 学校給食調理搬入業務について民間委託を検討する。 現行の安全管理水準や学校給食の質を確保したうえで、民間のノウハウを活用し、効率的運営を図ることで安定的、継続的に学校給食業務を運営することを目的とする。	新規事業	恩納村学校給食調理配送業務等民間委託基本方針(案)の作成 ○給食調理及び配送業務等民間委託方針(案) ・村(学校給食の根幹となる業務) 献立作成、食材調達、食材検収、調理指示、調理物検査、検食、給食指導等の食材の安全性、地産地消の推進、栄養面、食育に関する項目は責任をもって実施していく。 ・民間委託(学校給食の調理等) 調理作業、配荷、搬入、回収、洗浄、保管、消毒、清掃等	将来的な学校給食運営についての方向性を運営委員等への周知を行った結果、ある程度の理解が得られた。	教育委員会の基本方針(案)を協議し、村教育総合会議への提案を行う。 【提案資料作成】 ① 委託仕様書(案) ② 見積書(5年) ③ 他市町村情報収集	B	①現状の内容で継続

#### 4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成委員及び意見の内容は次のとおりです。

##### (1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会(令和2年7月16日現在)

役職	氏名	任期	備考
委員長	仲西智直	令和2年7月16日～当該事務事業年度完了まで	元村教育委員会職員
副委員長	村吉エミ子	令和2年7月16日～当該事務事業年度完了まで	元村立幼稚園教諭
委員	星野文彦	令和2年7月16日～当該事務事業年度完了まで	元村PTA連合会会長

##### (2) 意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、令和2年7月16日(第1回)、8月13日(第2回)、8月20日(第3回)に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受けながら評価を行いました。また第3回事務事業点検外部評価委員会(8月20日)には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行い、その結果を答申いたしました。

##### 記

##### ① 点検評価報告書について

昨年度に引き続き、教育委員会の事務事業の点検及び評価は、事務事業評価シートにより事業目標、事業の成果、今後の課題、事務事業の評価について、課長、及び担当者からの事業評価の説明を行い、事業実績や事業の成果、事業に対する自己評価等が適切であるかを確認しました。また、恩納村全体の生涯教育を考え、学校教育、社会教育関係事業について、生涯教育の視点から事務事業の点検及び評価を行いました。点検評価においては、今年度で11年目となり、当初からの点検評価に比べると課題への取組や事業の成果が毎年向上しており、各事業の内容が概ね達成しており、事務事業点検評価報告書においても点検項目並びに事業内容、取組み結果、次年度の課題についても、わかり易く丁寧にまとめられ、担当者が熱心に取り組んだことが伺えます。過去に指摘されていた記載内容及び方法が適切に改善されていました。

事務事業の点検及び評価は、事業の計画、実施、検討を行う職員自らが事業への意識を高め、事務事業への村民の満足度の向上や期待への適合などを視野に入れるとともに説明責任への意識を持つことが大変重要であると感じました。成果の見えにくいといわれる教育行政について、平成30年度よりPDCAサイクルに、R(リサーチ：情報収集)を付与し、RPDCAでの調査・研究も含めた事業展開ができるよう常に点検や評価を繰り返すことが重要と考え、更に教育行政への村民ニーズを的確に捉えた事業の実施に繋げていけるよう努力を促したい。

この評価結果の活用につきましては、次年度以降の事業の取り組みを具体的に進めやすくするためのものであり、予算や事務改善等の施策を推進するための方向性を確認するものとして、取り入れていただきたいと思えます。

##### ② 事務事業の評価について

令和元年度事業評価においては、事業数56件の事務事業の内部評価を点検しました。前年度に比べ事業評価数は、昨年度に廃止した事業1件、新規事業2件、

中止事業1件となっており、確定事業数は、前年度と同等の件数となっております。取組み内容や事業成果においては、全体的に評価は概ね妥当だと理解し、概ね改善されたと理解しております。また、各事業の実施においては、例年の課題である対象者への事業の効率的な周知のあり方や村民ニーズに合った事業内容については、概ね改善されており、事業効果及び全事業への参加者が増えるよう対策を講じていただきたい。なお、外部評価をしていく中で、委員から多様な意見提言がありましたので、主なものを列記します。

学校教育関連所管事業の22事業においては、教育相談事業(No.4)、奨学資金貸与事業(No.6)、キャリア教育事業の職場体験学習・職場見学(No.7)、幼稚園教諭研修会(No.8)、幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業(No.9)、教育振興備品整備事業(No.11)、就学支援事業(No.12)、特別支援教育支援員配置事業(No.15)、対外競技派遣及び中学校部活動支援事業(No.17)、小中学校施設整備事業(No.20)、恩納村立中学校適正規模推進事業(No.22)の11事業をA評価とし、教育委員会研修事業(No.1)、学校評議委員設置事業(No.2)、校長会・教頭会(No.3)、学校計画訪問(No.5)、幼稚園教育の推進(No.10)、心の教室相談員設置事業(No.13)、教育の情報化コーディネーター(No.14)、英語指導助手派遣事業(ALT)(No.16)、標準学力検査(知能検査：hyper-Qテスト)進路適性検査(No.18)、指定研究事業(No.19)、学校施設維持管理事業(No.21)の11事業をB評価と判定いたしました。

A評価では、教育相談事業(No.4)、小中学校施設整備事業(No.20)の2事業の取組み内容を前年以上に評価しました。特に教育相談事業は、不登校児童生徒への適切な対応や高校進学への意欲の向上が図られたことを高く評価いたします。

B評価の各事業においては、更に充実した事業実施を展開し、A評価を得られるよう努力していただき、令和元年度の学校教育関連所管事業の成果として評価します。

社会教育関連所管事業の12事業においては、青少年団体等活動助成事業(4団体)(No.1)、国際交流派遣事業(No.2)、自然生活体験学習「サバイバルキャンプ」事業(No.3)、社会教育教室(うんな大学)(No.5)、いきいき女性教室(No.6)、地域リーダー研修(No.7)、楽しく子育て教室(No.8)、公民館講座(6講座開設)(No.9)、人材育成激励金支給事業(No.10)、各種団体への活動支援(No.11)をA評価とし、地域リーダー研修事業(No.7)では、家庭教育講話で「薬物乱用防止」をテーマに講演会が開催され、PTA会員等の研修会が充実されたと判定し、A評価としました。

B評価では成人式事業(No.4)となっており、式典内容及び開催時期等を検討し、参加率の向上が図られるよう次年度に向けて調査・研究を重ね事業展開を行うよう意見し、判定しました。

文化情報センター業務(No.12)は、前年度より来館者は減となったが、貸出人数、貸出冊数及び登録人数は増加傾向にあり、今年度においてもS評価とし、高く評価いたします。

社会体育関係所管事業の6事業においては、村体育施設維持管理事業(No.6)をA評価とし、施設利用の人数や回数から多くの利用者が活用している状況がうかがわれ高く評価します。今後も指定管理事業者との連携を図り、自主事業の開催など多くの村民が利用できる事業展開を課題とし判定しました。

B評価の各種社会体育事業の充実でウォーキングフェスタ(No.1-1)、スポーツ教室(No.1-2)、壮年バーレボール(No.1-3)、壮年ソフトボール(No.1-4)、ミニバレー(No.1-5)を1事業として評価し、スポーツ推進委員の資質向上(No.2)、村体育協会・郡体育協会の活動支援(No.3)、村立小中学校体育施設(プール)の一般開放事業(No.4)、各種団体等県外派遣補助事業(No.5)は全体的に参加者が減少しており、関係機関及び関係課との連携を図り、事業目的に沿った内容での実施を行えるよう意見し、判定いたしました。また、ミニバレー(No.1-5)においては、参加申し込みがなく、次年度以降の実施は見込みがないため廃止とされたが、社会体育事業の主たる目的を達成するため新たな事業を検討し、充実した社会体育事業の展開に期待をします

学力向上推進委員会事業の1事業においては、全9事業を1事業としてA評価とし、各事業とも学力向上の基礎になる事業と理解しており、今後もより充実した事業として実施し、学力向上に効果のある事業内容の改善及び新たな事業展開を期待します。また、諸検定料支援事業(No.1-6)では、合格率が低いため、受験に対する意識付けを強化し、引き続き学力向上の推進を図っていただきたい。更には、これまで高校受験対策の一環としていた未来塾(No.1-7)においては、中学

校統合を機会に、学力向上を目的に全学年での開催を検討し、中学校における学力向上に期待します。

博物館所管事業の8事業においては、博物館運営(No.1)、企画展・展示会(No.2)、博物館講座(No.3)、地域伝統芸能等保存事業(No.6)、文化財普及事業(No.7)でA評価とし、サンセットコンサート(No.4)は、新型コロナウイルス感染症対策で中止とし、恩納村博物館紀要(第11号)の刊行(No.5)、山田城跡整備事業(No.8)をB評価とし、恩納村文化財指定業務(No.9)はC評価としました。

A評価では、博物館運営(No.1)、企画展・展示会(No.2)及び博物館講座(No.3)において、令和3年5月の開館20周年に向けて常設第2展示室のリニューアルに向けての計画を策定し、今後の博物館運営の可能性に期待をし、評価をしました。企画展・展示会(No.2)及び博物館講座(No.3)では、様々な展示会や外部団体との協力事業の充実がうかがえ、各種講座では「葉っぱがおもちゃに変身!～植物でおもちゃを作ってみよう～」 「葉脈標本を作ろう!」 「パーキ作り」など充実した各種講座が開催され、高く評価します。

B評価では、恩納村博物館紀要(第11号)の刊行(No.5)や山田城跡整備事業(No.8)を積極的に推進し、今後の文化財関連事業において課題解消に向けた取り組みを期待し、目に見えた形で成果がでるようB評価とします。

C評価では、恩納村文化財指定業務は、村内より基礎情報を収集し、村指定文化財の発掘作業の充実を図るよう意見とします。

学校給食センター所管事業の7事業においては、給食費徴収率の向上、恩納村第3子以降学校給食費免除事業、学校給食費完全無償化事業(新規)はA評価とし、栄養教室の開催、村産食材の積極的な活用、給食センター見学の推進、恩納村学校給食調理配送業務等民間委託事業(新規)は、B評価としました。

A評価の給食費徴収率の向上においては、支払督促制度(民事訴訟法)を活用し、支払督促手続きを行った結果、長期滞納者の納付状況が好転した内容をA評価とし、恩納村第3子以降学校給食費免除事業においても、対象園児児童生徒の保護者からの申請率が高く、概ね目的が達成されていると理解し、A評価としました。又、新規事業の学校給食費完全無償化事業は、幼稚園及び中学校の無償化事業を次年度から実施することが決定され、小学校の無償化は、継続して実施時期を決定し、子育て支援の充実を図るよう意見とします。

B評価の栄養教室の開催、村産食材の積極的な活用、給食センターの見学の推進においては、小学校低学年での食育教室、村産食材の拡充、給食センターの見学を積極的に行い、子どもたちへの栄養教育の充実を図るよう意見とします。

その他の事業について、審査の過程で多種多様な指摘や提言がありましたがその全てを列記することは省略し、資料として会議録を添付いたしますので今後の事業展開の参考に供していただければ幸いです。

### ③ まとめ

この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないシステムであるため、外部評価委員の意見が即効性をもって反映されるように、現年度事業の実施途中で中間的評価点検を取り入れ、実効性のある点検及び評価を行い、実施中の事業に反映されることが望ましいと考えます。又、事務事業の点検及び評価をすることにより、成果を確認するとともに、課題解決を要する事業については、その課題解決を事業目標に掲げ目標達成に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことが低評価の事業を継続していくことを防ぎ、効率的な事業推進につながります。その結果が次年度以降の教育目標や事業執行、予算等に反映されるとともに、事務事業の改善等に活用されるよう職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、村民ニーズに合った高い事業目標を調査及び研究し、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行われ、本村の更なる教育振興につながります。

令和2年度教育委員会主催の各種事業においては、新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ほとんどの事業が中止が想定され、次年度に向けての事務事業の検証及び改善等を検討し、今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申と致します。

④ 結びに

教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないことから今後ともなお一層村民によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

事務事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務事業の管理及び執行状況を点検及び評価することにより、その成果や課題を確認することで、今後の事務事業の改善に反映させるとともに、具体的、効果的な教育行政の推進を図ることを目的としています。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思います。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業の改善や効果的な実施と内容の充実に努めてまいります。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

令和2年9月

恩納村教育委員会

